



第 31 号
 2023年(令和5年)1月
 発行所
 社会福祉法人 聖家族会
 発行責任者 西村和子
 編集 広報委員会
 ☎859-0167長崎県諫早市
 小長井町遠竹2727番地3
 ☎ 0957 - 34 - 4520
 FAX 0957 - 34 - 4521

2023年おめでとうございます

社会福祉法人 聖家族会 理事長 **西村 和子**

新型コロナウイルスと出会って早くも3年になります。人間もウイルスも共に生きていくことに少しずつ慣れて、受け入れ、はじめほどの恐怖のようなものはなくなってきたと思います。けれども、まだやはりあまり近づいて来ないでほしいなと思います。

コロナウイルスの感染が速いように、新しい情報を提供してくれるメディアの世界が広がり、沢山の情報を得ることができるようになりました。

カトリック教会では、2021年から準備が始まり、2023年秋にシノドスが行われます。シノドスは「共に歩む」と言うラテン語から来た言葉で、世界のカトリック司教の代表者会議のことです。今回行われるシノドスは今までとは違い世界中の信者の意見を取り入れて行う会議です。世界のカトリック信者数は12〜13億人と言われています。これだけの人数の意見を聞こうとしているのです。教皇フランシスコはこのシノドスを3年間の「歩み」とする

ように、三段階に分けました。①地方教会のレベル、②大陸レベル、③普遍教会レベルです。まず各教会のコミュニティからの意見を教区でまとめ、各国ごとにまとめたものを世界の地域ごとにまとめ、それがローマへ、また世界の修道会からの意見がまとめられてローマへ、これらの意見が総まとめになって行われる会議です。

「識別する。聴く。参加する。」という3つのなかで「共に歩む」ためが一番大切なことは「聴く」といふことと違つて「変わる」ということが前提とされているといわれています。

私たちのみさかえの園でも、誰かの意見を聴いてそれをただ聞くだけでなく、それによって何かが変わらなければ意味のない言葉だったことになりました。毎日たくさんのお話を聞いています。その多くは聞き流し、又は生活の中での伝達でその時だけのもの、しかし時には私たちの心に残り深く留めなければならぬもの

もあります。それによって新たな選択を必要とすることもあります。「初めに言（ことば）があった。言は神と共にあった。言は神であった。：言のうちには命があった。命は人間を照らす光であった。」（ヨハネ福音1章1〜4節）

言葉に耳を傾けることのできる年でありますように。

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ」

（ルカ福音書2章14節）

今年、「あゆみの家」創立50周年です。みさかえの園で一番初めにできた「めぐみの家」がなくなり「第二めぐみの家」しか残っていませんでしたが、再び「めぐみの家」という名称に復活し、新たな歩みに入りました。昨年は古い建物が壊され、1つの世代が終わり新しい歩みに向かっていく「みさかえの園」であります。人々に愛されよるこばる「みさかえの園」である1年間でありますように願っています。

「初めに言（ことば）があった。言は神と共にあった。言は神であった。：言のうちには命があった。命は人間を照らす光であった。」（ヨハネ福音1章1〜4節）

言葉に耳を傾けることのできる年でありますように。

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ」

（ルカ福音書2章14節）

今年、「あゆみの家」創立50周年です。みさかえの園で一番初めにできた「めぐみの家」がなくなり「第二めぐみの家」しか残っていませんでしたが、再び「めぐみの家」という名称に復活し、新たな歩みに入りました。昨年は古い建物が壊され、1つの世代が終わり新しい歩みに向かっていく「みさかえの園」であります。人々に愛されよるこばる「みさかえの園」である1年間でありますように願っています。

新しい年を迎えて

みさかえの園あゆみの家

施設長 平松 公三郎

2023年を迎えました。うさぎ年ですので、勢いよくジャンプする年にしましょう。とはいえ、3年持ち越したコロナを背負ったものに今年もなりそうですので、どのくらいの高さまでジャンプできるか、コロナへの対応を十分執りながら、より高く飛べるようにしたいものです。

そして、あゆみの家にとって2023年は、開設50周年の節目の年となります。1973(昭和48)年5月23日に5名の入所者を初めて受け入れて以来、半世紀を重症児者施設として歩んでまいりました。今年はその歩みを振り返り次のステップへとつなげる年となります。5月13日に大司教様による祝福御ミサを、11月4日に利用者の方々と職員での園内祝賀会を行う予定です。また地域の方々のつながりのため、10月7日に第1回地域交流フェスティバルを行うことにしました。これらの様子を盛り込んだ記念誌も発行する予定です。

「50年の想いを胸に、あゆみ続ける地域とともに」をスローガンに、障害をお持ちのすべての方々とともにこれからの50年をあゆみ続けていく門出の年としたと思っています。皆さま、この一年どうぞよろしくお祈り致します。



あゆみの家の50年、そしてこれから

療育部 土井 美名子

今から50年前、いわゆる動く重症児と言われていた強度行動障害を伴う障害児を受け入れる施設は少なく、一人でも福祉の手から落ちこぼれる子どもがあつてはいけないという愛とキリスト教の理念の下、動く重症児の方達が安心して暮らせる家としてあゆみの家は開設されました。

私が入職したのは、開園して10年を過ぎた頃でした。その頃は就学年齢の方が沢山おられて毎日慌ただしくみさかえ養護学校へマイクロボスで送迎していた事が思い出されます。

昭和56年から「国連・障害者の10年」という取り組みがなされ、あゆみの家でも、豊かな暮らしを提供していくにはどうすれば良いかという思いで、様々な療育を展開していききました。生活のリズムを形作ることで情緒の安定を図る生活の構造化や、園内自立、QOLの向上を目標とした療育を行っていききました。

そんな中で環境の問題はなかなか解決されない課題でした。動く人、動けない人と居室単位で傾斜配置はしていたものの、一つの病棟に動く人、動けない人が混在しているという状態でした。このような環境をどうにか変えられないものかと増築や改築がなされましたが、問題の解決には至りませんでした。そんな折大村市に移転することになり、新しい建物によって長年の生活環境の問題が解決されました。

大村市へ移転して5年が経ちました。現在の課題としては新しい環境での療育活動の展開です。入所者の方たちのライフステージに対応した支援のあり方と豊かな暮らしを提供できるようにこれからは60年、70年とあゆんでいきたいと思っています。



50周年を振り返り、過去のアルバムを開いてみました。若かりし頃のあの人も…?

1970年代

1973年5月

1980年代

1990年代

2000年代

2018年8月 大村へ移転

ワークスペースあん

新年にあたり今年もよろしく願い致します。 昨年もコロナと共存しながらの生活でした。コロナ対策が徐々に緩和された状況下の元でバザーも少しずつ開催され、過去2年間は2～3回に留まりましたが、今年度はすでに6回、年度末に2回予定しています。地元開催の「とれたて市(かき祭り)」(2/5予定)では小長井支所職員、漁協及び農業関係者の方々と一緒に平成21年から実行委員としても携わっています。バザー参加は社会貢献の一つとして捉えており、利用者さんの達成感と収益性をもたらす工賃へ反映されます。接客(金銭授受含む)を通して自分達の生産した商品が目の前で売れていく喜びは次のモチベーションには不可欠です。バザー販売の主流は焼き鳥(炭火焼)と育苗(野菜苗・玉葱苗・花苗)です。育苗販売は地域の直売所にも定着し、リピーターの獲得も徐々に出来ています。焼き手(焼き鳥)は男性職員が行っていますが、心強い助っ人(利用者さんの技術習得)が現れ活躍しています。彼の勇姿も是非見て頂きたいです。

トピックス① 6/11(土)「ナイスハートバザール15周年」へ出店



- ・いつもの諫早図書館を抜け出し、諫早駅前広場にて初開催。
「花苗が雰囲気作りに良かった」とお声を頂いています。
集客率は高かったです。

トピックス② 7/12「養生装置(野菜苗、花苗の発芽器)」を購入



- ・長年にわたり使用していましたが、不具合が生じ新規購入しています。
温度管理の面から花苗は生産性が向上しています。次は野菜苗の効果が楽しみです。

トピックス③ 9/6「台風11号」によるビニールハウス被害



- ・このハウスでは諫早市役所建設部緑化公園課と業務委託を結び、「花いっぱい運動」用の花苗を今年度は11,400本育成し17箇所へ配布しています。

トピックス④ 11/24 個人宅(市内) 8/9,12 旧給食センター(森山)の環境整備



- ・口コミで新たに作業依頼を受けています。
外部作業は全体の約2割近い頻度で稼働しています。

・利用者さんの高齢化や重度化に合わせた支援(生活面及び作業提供)と新規利用者さんの獲得が大きな目標(課題)です。介護や治具の作成など技術も求められます。「お仕事する、お仕事したい、工賃が欲しい、工賃で買い物したい」等々、利用者さんの意欲を大切にしながら楽しい事業所を目指して行きたいと思っております。

(サービス管理責任者 門脇 直子)

美味しい食事を 提供するために

みさかえの園めぐみの家

管理栄養士 森 祥子

昨年、施設の「増築リフォーム工事」を行った際に、利用者様の動線等を考えてデイルームの近くに新しい食堂ができました。明るくきれいな食堂に変わり、食事の時間がより良く楽しい空間になったように感じます。

ただ、リフォーム前は調理室と食堂が隣接していましたが、調理室と食堂が離れてしまったため、調理スタッフは新たに「食事の配送」という業務が加わりました。そのため、食堂の隣に温冷配膳車を常駐するスペースを設け、調理室から温冷配膳車へ、温冷配膳車から利用者様の



テーブルへと食事を提供するための手順が少し複雑になりました。

食堂へ食事を運ぶためには利用者様も利用する廊下を通らなければならず、どうすれば安全に効率よく配達できるのか検討を重ねました。「これなら大丈夫」と思っていたても、いざやってみると上手くいかないことも多くありました。1食ごと、1日ごとに再検討を行い、利用者様や支援スタッフの動きと調理スタッフの動きを調整し、いまではスムーズに食事の提供ができています。

毎食、毎食を楽しみにされている利用者様のために食事をテーブルまで運ばせて頂きます。「美味しい!」と言って頂けるように。



食事満足度調査について

みさかえの園めぐみの家

管理栄養士 池田 絵美



意思決定支援における私たちの業務として、サービスの一つである食事では何を提供すべきか、利用者様が何を食べたいのか、何を望んでいるのかを聞くこと、知ることを目的にめぐみの家では年に一度「食事満足度調査」を実施しています。

今年度の調査では、食事の量や種類、味付けや見た目では、9割以上の利用者様から「満足している」「おおむね満足している」との回答が得られました。また、利用者様が実際どのような食事を一番好まれているのかを把握する目的で行った問いでは、全体的に「柔らかいもの」「食べなれたもの」「味がしっかりしているもの」「酸味や苦みのないもの」

が特にあがっていました。その中でも、肉料理では「ハンバーグ」・麺料理では「うどん」・野菜料理では「煮物」・果物では「バナナ」・飲み物では「コーヒー」が毎年人気があります。

しかし、利用者の皆様も年々「咀嚼・嚥下機能」が低下しています。そのような状況でも経口摂取できる今、「食べる」ことは生きる楽しみであり、すべての人に与えられた平等の喜びでもあるため、安全面にも配慮しながら食を通して身体だけではなく、心も健康になるような食事提供をしていきたいと思えます。



一足早い 「クリスマスプレゼント」

みさかえの園のぞみの家

施設長 田中 伸一



早いもので本年も残りわずかとなり、寒さも日毎増してきています。

今年も、新型コロナウイルスによる影響で、様々な対応が必要な年となりました。のぞみの家では、今のところ施設内への新型コロナウイルスを持ち込みは発生してないのですが、家族間での感染により職員が出勤できないなどの影響があり、大変な日々となっています。また、利用者様においては、ショッピングなどの外出活動ができず、施設内で過ごしてもらおう日が多くなっています。

そのような中、7月に「のぞみの家育友会」の役員会があり、役員の皆様より「コロナ禍で様々な制限がある中、日々の支援を頑張ってお礼の言葉を掛けていただきました。職員への労いの言葉とともに、コロナ禍で家族との面会や外出などができずに頑張っている利用者様へも心を寄せて下さり、利用者様が居室で使用している古いテレビ(2008年製)を新しく買い替えてあげたい

との話をさせてもらったところ快く了承していただきました。

11月末、のぞみの家育友会様より32台のテレビを寄贈していただき、それぞれの居室に新しいテレビが搬入されました。今までよりも少し大きいテレビを居室で楽しく視聴されている姿は微笑ましく、映像がクリアになったことで「きれいかよ。」と大喜びしてすぐに感想を伝えて下さいました。新しいテレビがきたことで、リモコンの操作をいち早く覚えようとする方もいて、利用者様へのぞみの家育友会様からの一足早い「クリスマスプレゼント」となりました。この場を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

現在、新型コロナウイルス感染者数は、長崎県でも千人台が続いており、増加傾向となっております。今から、冬休み、年末年始など人の動きが多くなり、年明けには更に増えるのではないかと予測されております。ワクチン接種や内服薬の承認など対策は進んでいます。新型コロナウイルス感染症などに対し、施設としては、マスクの着用や手指消毒など従来通りの感染対策を続け、利用者様が安心して生活できるように対応していく所存です。

コロナ禍でも楽しみを

みさかえの園のぞみの家

サービス管理責任者 杉森 智香子



新型コロナウイルスの流行以降、なかなか終息が見られず、早4年が経とうとしています。現在も感染症対策のため、利用者様と御家族には面会や外出、外泊等を控えていただいています。また、行事に關しても色々制限をしなければならぬことも多く、今までとは違った生活の変化に申し訳なさを感じることも多々あります。このような状況の中で、「私たちに何ができるのか?」そう考えた時に、利用者様が笑顔で過ごしていただけるように、楽しんでもらえるような行事を考え、工夫して行うことも私たち職員の大切な役目の一つだと思います。

のぞみの家では、季節ごとに様々な行事を行っています。その中でも5月に開催している「ニコニコDAY」、9月に開催している「あそぼうDAY」は、どちらの行事も今まで御家族と共に過ごして楽しんでいただく行事でした。しかし、新型コロナウイルスの流行と共に感染予防のため、御家族の参加を中止させていただき、利用者様と職員とで行事を行ってきました。どの行事に關しても普段と違った一日を職員と共に楽しく過ごしていただきたい、そのよう

中心に職員が一丸となり、利用者様が楽しめるような行事の内容や装飾等、アイデアを出し合いながら毎回一つの行事を形にしています。今年も、利用者参加型のゲームやダンス、利用者様が大好きなカラオケ大会、職員による踊りや二人羽織り等を披露し、たくさんの方の笑顔を見ることができました。

当初は、御家族が来られないことに不満や悲しみを露わにする利用者様もあり、その度に丁寧に説明し納得していただくことの連続でした。回を重ねていく中で、少しずつ利用者様の表情にも笑いが溢れ、行事で盛り上がりつつある姿や「楽しかったよ。」という言葉も聞く機会も増え、職員も喜びや嬉しさを感じています。利用者様にとっては不自由な生活がまだまだ続きそうですが、施設の中でいつも季節を感じてもらえるような行事や装飾をこれからも行い、楽しい時間をたくさん過ごしていただけるよう今後も様々な活動を利用者様に提供していきたいと思っております。



コロナ禍で園生活が難しくなっている

みさかえの園総合介護福祉センターむつみの家

施設長 福田 雅文

世界のコロナ対策をみると、国民性やそれぞれの地域での感染フェーズなどで、対策は大きく異なっている。今回、サッカーのワールドカップ会場では殆どの国はマスクをつけず、歓喜の表情と声で溢れていた。中国ではゼロコロナ対策で完全防備した警官が国民の行動を厳しく制限していた。日本ではマスクをつけての自粛生活が一般的だが、感染しても重症化になりにくい若い人たちにとっては、インフルエンザ感染の感覚になるのも仕方ない。一方、高齢者や合併症のある方が入院している病院や入所施設では感染により生命の危険にさらされる。このような方が入所されているみさかえの園では、当然、職員はより厳しい自粛生活を求められている。最新の情報、知見を総合的に判断して、コロナウイルスと冷静に向き合い、正しく恐れることが出来ればいいのだが…。施設では集団生活で、かつ濃厚な介助が必要な方ばかりなので、一旦感染が発生すると、入所の方と職員の両方に感染が広がって大きなクラスターとなり、施設の機能を失われかねない。正しく恐れ、利用者の方が心豊かな日々を送れることを願っている。神のご加護を。

《 むつみの家写真スポット 》

むつみの家では感染予防を行いながら活動等を行っていますが、利用者様の安全を考えるとまだまだ油断は出来ません。可能な活動と平行して、散歩時の気分転換や季節を感じる事の出来るスペースを写真スポットとして2階訓練ホール横に作りましたので今回紹介します。

『バルーンフェスタ』

秋空にバルーンが飛びました！



『むつみペンギン水族館』

暑い夏に涼しい空間を作りました。



『むつみ果樹園』

秋にたくさんの果物が実りました！



クリスマス
おめでとう！



マッスルスーツ研修



みさかえの園 サテライトセンター

土井 啓子

令和4年10月30日に行われたサテライト研修内のグループワークにおいて利用者様の精神・高齢化・重症化が大きなテーマとなり、そこから介護負担について意見がありました。介護負担が高い人が増えると介護に時間や人を要し、職員の腰への負担も大きくなることからマッスルスーツを検討することになり、むつみの家に相談し11月30日サテライトセンターでのマッスルスーツ研修に至りました。

参加者はグループホームりんから職員6名、デイスペースあんから3名、指導者としてむつみの家より

ハスタッフ2名の協力により開催されました。

「マッスルスーツとは、人工筋肉内部の圧力が高くなることで収縮力が発生し、前傾姿勢時や持ち上げる動作時の腰の補助を目的とした着用型動作補助装置で、介護の場面でも抱えたり中腰での作業時に腰をサポートしてくれます」とリハスタッフより説明を受けました。チーム別で実際に説明書を見ながら手順に沿ってマッスルスーツを装着し、いろんな場面を想定して動いてみました。リハスタッフからのアドバイスで、座った状態からの介助の時は初めから座った状態で装着し、膝あてを両方又は片方外しておき後からはめる方法もあると話され、状況により調整できる事もわかりました。

職員の中には、「腰を守るため(悪い姿勢をとらないよう)矯正の意味でも使用するといいかも」といった発言があったり、あんのスタッフからは、「おむつ交換時に使用してみると良いかも」その他、「自分の装着が正しいのかわからない(ベルトの位置等)」などの意見もありまし

た。リハスタッフからは、「介護の現場で実際に使用しながら検討してみるとよい。マッスルスーツを検索し、動画を見たりしてみてもいい」といった話や保管方法など話されました。このマッスルスーツが介護等の生活支援の実際の場面で活用できるかどうかそれぞれの事業所で使用し、今後に向けて検討していく事となりました。



<マッスルスーツ装着の様子>

現場での様子

<台所での立ち仕事>



<ベッドへの移乗場面>



<姿勢変換場面>



<車椅子からの立ち上がり移乗>



長崎県医療的ケア児支援センター 「つなぐ」の設立について



あゆみの家副施設長

センター長 岡田 雅彦

2022年8月、長崎県は長崎県医療的ケア児支援センター（以下、センター）を設立し、みさかえの園がその運営・活動を行うことになりました。

医療的ケア児とは人工呼吸器や経管栄養などの医療が日々の生活で必要な児のことをいいます。自宅で暮らす医療的ケア児の数は年々増えていますが、そのご家族は毎日の医療的ケアと育児を行いながら多くの悩みや困りごとをかかえています。「医師に訪問診療・往診してほしい」、「どんな手当が申請できるのかわからない」、「災害時にどこにどうやって避難できるのか心配」、「保育園に行かせたいが受け入れてくれる園を探せない」、などご家族のもつ悩みや困りごとは多岐にわたっており、しかもどこに相談していいかわからないという切実な声があります。これらの問題を解決すべく、20

21年9月に「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行され、医療的ケア児の支援が法的に示されることになりました。この法律の中に文字通り支援の中心となる「センター」の設立が掲げられており、長崎県でも設立となった次第です。

長崎県がセンターの業務をみさかえの園に委託したことは偶然ではなく、これまでむつみの家、あゆみの家を中心にみさかえの園が医療的ケア児に対して医療・福祉の両分野において支援をしてきたことを評価されていることだと思います。（具体的には、訪問診療、デイサービス、シヨートステイ、相談受付、「医療的ケア児等コーディネーター」という相談について支援する仕事をする人材育成、などを行ってきました。）むつみの家にセンターの事務局を置き、むつみの家とあゆみの家の職員が業務に勤しんでいます。センターの役割は主に二つあります。ひとつは患児とご家族からの相談を受け付け、情報提供・助言を行うことです。これまでどこに相談すればいいのかわからなかったも

のをセンターが直接受け付け、ご家族と相談先を「つなぐ」役割を果たします。ふたつめは支援する現場での多職種連携強化です。医療的ケア児を支援するには医療・福祉・教育・保育など多職種による連携が必要です。医療的ケア児支援センターはこれらを「つなぐ」ことで連携強化に努めていきたいと考えています。上記のようにセンターの仕事のキーワードは「つなぐ」と考え、センターの愛称も「つなぐ」としました。センター設立から5か月が経とうとしますが、すでにご家族や支援者から30件以上の相談をお寄せいただいています。これらの相談に対してできる限り有意義な情報提供・助言を行っていきたいと思いますし、さらにご家族や関係機関から気軽に利用してもらえるセンターにしていきたいと思えます。法人職員の皆様、みさかえの園の新しい業務についてご理解、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

法人事務局からのお知らせ

マリア寮・ヨゼフ寮解体工事完了

令和4年5月から行なっていたマリア寮とヨゼフ寮の解体工事が完了しました。工事期間中は工事車両の出入り等で駐車場が手狭となり、法人本部へ御用のみなさまには大変ご不便をおかけしました。ご協力ありがとうございました。

食堂・売店の閉鎖について

昭和48年に建設された厚生福祉研修会館において営業を行なっている食堂及び売店が令和5年3月をもって閉鎖となります。

往時はお昼時ともなると、職員や利用者のご家族さまで大変賑わっていましたが、むつみの家・あゆみの家がそれぞれ移転して以降、お客さまの減少が顕著となり、今後の増加も見込めないことから、やむなく閉鎖することとなりました。

ご利用いただけるのも残りわずかとなりました。機会がありましたら足を運んでみてはいかがでしょうか。



公式キャラクター
「つなぐくん」



社会福祉法人聖家族会のホームページはこちらのQRコードからご覧いただけます
<https://misakae.or.jp/>

